日本建築学会大会学術講演梗概集
（関　　東）２００１年９月

ミュージアム活動の視点から見た市民活動展開の条件
—地域のエコミュージアム化に関する研究　その６—

正会員 ○ 石川宏之*1
同　　大原一興*2

市民活動　コミュニティ活動　ミュージアム活動　エコミュージアム

■はじめに■

近年，自然や文化・産業などの地域遺産を活かしていくためにまち全体をミュージアムと見立て市民主体によってミュージアム活動が展開されている。筆者らはこれまでにミュージアム活動の視点から川崎市内で地域遺産を活かした市民活動について現況を捉えるために市民団体の代表者に対し郵送によるアンケート調査を試みてきた（文－１）。

本研究では，「ミュージアム」を「①調査研究」，「②収集保存」，「③展示・教育」の基礎的要素からなる一連のミュージアム活動が行なわれていることと捉え（文－２pp.35-40），ミュージアム活動の基礎的要素から市民活動の現状を把握し，市民活動を一連のミュージアム活動として展開するための条件を得ることを目的とする。

■研究方法■

方法は，まず市民活動の基盤となる「技術的支援」「財政的援助」「活動拠点の確保」「情報の共有化」の視点から市民団体の活動支援を整理する。つぎに市民団体の活動を「調査研究」・「収集保存」・「展示企画」・「教育普及」に分けその形成過程の特徴を考察し，一連のミュージアム活動として展開するための条件を得ていきたい。調査手法としては，４つの市民団体に対し聴き取り調査を2000年２月と７月に実施し，市民団体の活動経緯と活動内容，行政との関わりを捉えた。

調査対象は，地域遺産を活かしていくためにまち全体をミュージアムと見立て市民と行政とのパートナーシップにより推進されている多摩川エコミュージアム構想を掲げる神奈川県川崎市（文－３）とし，（文－１）で回答された団体の中からミュージアム活動の各要素である「調査研究」・「収集保存」・「展示企画」・「教育普及」全てを実施している該当数の多い４団体とした。表１は，被調査団体について上段にそれらのプロフィールと下段に活動支援を示したものである。

■市民活動をミュージアム活動として展開するための条件■

（１）一連のミュージアム活動を可能にする公民館の働き

Ａ団体の特徴は，「社会ボランティア団体」に登録して毎年公民館のイベントや講座に協力することで，Ａ団体の持つ情報や活動が地域社会に還元されていることである。つまり「調査研究」・「収集保存」したことを「展示企画」或いは「教育普及」にまで展開する一連のミュージアム活動が見られる（図１－Ａ）。これらのことからＡ団体の一連のミュージアム活動を達成させるためには「展示企画」において「活動拠点の確保」が重要であり，他に「教育普及」として地域社会との「情報の共有化」において公民館の働きが大きいことも指摘できる。

（２）活動拠点の確保とミュージアム活動の転換

Ｂ団体の特徴としては公民館の講座時に一連のミュージアム活動を繰り広げ，その後，新たな課題として自然環境に着目し，その保全活動を行なっていくことである。つまり一連のミュージアム活動をスパイラルアップしながら繰り広げ，その後に「収集保存」に重きを置いた活動を行なっていくタイプと考えられる（図１－Ｂ）。Ａ団体の場合と同様に当初「活動拠点の確保」ができていたが，新たに発足し公民館と関わりが無くなると「展示企画」は継続できなくなってしまった。しかし地元の地主や行政との交流がきっかけで新たな場所に「活動拠点の確保」ができ，「収集保存」に重きを置いた活動を行なうことに

表１　被調査団体のプロフィールと活動支援の現況

	被調査団体	Ａ：高津シルバーガイドの会	Ｂ：まちはミュージアム	Ｃ：多摩川と語る会	Ｄ：平瀬川流域まちづくり協議会
プロフィール	活動分野	教育・文化	地域社会	環境保全	地域社会
	活動者数	1～39人	1～39人	40～79人	80人以上
	年間活動費	10万円未満	10万円～100万円未満	10万円～100万円未満	100万円以上
	経緯と目的	公民館で開かれた高齢者教室の受講生が中心となり会を発足させた。会では会員相互の研究と親睦を深めることを目的とし，社会奉仕として人々に市内の史跡や名勝・神社・仏閣などを案内している。	公民館で開かれた講座がきっかけで，主婦層が中心となり会を発足させた。会では，こどもたちのふるさとづくりを目的とし，まち歩きなどのイベントや自然の保全活動を実践している。	川崎市生涯学習事業団の企画講座がきっかけで，中高齢者が会を発足させた。会では人々に多摩川流域の自然を知ってもらうために，野鳥や植物のことを解説しながら川沿いを散策している。	平瀬川の河川改修工事にともない地元の商店会が中心となってを発足させた。会では，地域の活性化を図ることを目的とし，川沿いに桜を植樹したり，清掃を実施している。
活動支援	技術的支援	展示会を催す際に公民館の講師であった郷土史家に助言をもらったり，その人を通じて資料を借りることができた。	公民館の講師にまち中を歩いて解説してもらっている。	企画講座の講師から多摩川の歴史を学んだり，植物や野鳥の観察ノートの作成の仕方について助言をもらった。	小学校の先生の協力を受けて地域資源のマップを作ったり，自然観察会を催している。他に行政や学識経験者から助言を受けている。
	財政的援助	公民館のイベントに協力することでそこのギャラリーを無料で借りられ展示会を開くことができた。	山林を保全するために川崎市から助成を受けている。	川崎市市制70周年記念市民企画事業として団体のイベントを助成してもらった。	会のイベントに対し地元の商店会や自治会，名士会，川崎市から助成を受けている。
	活動拠点の確保	川崎市教育委員会の「社会ボランティア団体」に登録し，公民館の会議室を無料で借りている。	個人所有の菖蒲園で草取りを手伝い茶会や音楽会を催させてもらったり，川崎市の許可を受けて山林を維持管理させてもらっている。	活動範囲は多摩川やその流域の市町村であるが，活動拠点は特に無い。	川崎市の許可を受けて平瀬川流域で活動をしている。
	情報の共有化	公民館の講座や依頼のある団体に会がまちを案内している。また小学校の児童の前で民話を話すことがあった。	郷土史を学ぶために古老を訪ね話を聴いたり，人々にまちを案内している。また散策コースについて地域の人からの問い合わせに応じている。	会の活動報告書を作ったり，そのことが縁で小学校に招かれ児童の前で多摩川を語るようになった。	地域資源のマップを小学校・自治会などに配布し，まち歩きを実施した。他にガーデニング教室を開き人材を育成している。

A Study on the Development of Citizens' Activities from the Viewpoint of Museum Activities
—Study on Planning of Ecomuseum　Part 6—

*1.ISHIKAWA Hiroyuki, *2. OHARA Kazuoki

至った。

（３）財政的援助によるミュージアム活動への発展の可能性

Ｃ団体の特徴は，主に多摩川沿いを散策しながら情報を収集しているが，ある時に市から助成を得られると展示会や発表会を催していることである。つまり「調査研究」「収集保存」を行ない，外から助成を得られた場合にのみ一時的に「展示企画」や「教育普及」へ展開するタイプと見られる（図１－Ｃ）。Ｃ団体のように専ら「調査研究」や「収集保存」に特化していても一時期，外から助成金を受けられると「展示企画」や「教育普及」にまで発展することができることから一連のミュージアム活動を展開する際に「財政的援助」が大きく影響する。

（４）諸団体の連携に見るミュージアム活動の総合化

Ｄ団体の特徴としては，強力な推進母体が存在し，その下で諸団体が各々の役割を担っていることである。つまり諸団体がミュージアム活動の各要素を担いながら連携し，重なり合って全体的に一連のミュージアム活動を展開するタイプと思われる（図１－Ｄ）。しかし一連のミュージアム活動を展開できた背景には，小学校の先生からの「技術的支援」や川崎市や地元の商店会・名士会からの「財政的援助」によるところが大きい。そして強力な推進母体の下で団体間の「情報の共有化」が行なわれたことで相互理解が深まり活動支援につながった。

■まとめ■

これまでにミュージアム活動の視点から各団体のタイプを比べてみると「活動拠点を確保」しているＡ団体は公民館で一連のミュージアム活動を展開しているが，Ｂ団体では公民館の講座時においてスパイラルアップしながら繰り広げた後，新たな「活動拠点の確保」として自然環境の保全に重きを置いた活動を行なっている。また，あまり他団体と関係を持たないＣ団体は「財政的援助」を得られると一時的に一連のミュージアム活動に展開する場合もある。Ｄ団体では強力な推進母体の下で「情報の共有化」を図ることで行政や教育機関・他団体から「技術的支援」や「財政的援助」を受け，各々が役割を担いながら連携することで全体的に一連のミュージアム活動を展開していく特徴が見られた。

以上のことから市民活動を一連のミュージアム活動として展開していくためには，行政や教育機関・地元の地主や地縁団体との交流・協力と，各市民団体の特性に応じた活動支援のあり方が重要であると思われる。例えば「活動拠点の確保」をするには教育機関や地元の地主との係わりを持つことが必要である。そして「技術的支援」や「財政的援助」を受けるためには行政や教育機関・他団体との係わりが必要であり，互いの「情報の共有化」を図り各々が役割を担いながら連携することで全体的に一連のミュージアム活動を展開していくことが可能になると思われる。

引用・参考文献

文－１）石川宏之・大原一興「市民活動の実状からみたミュージアム活動の可能性に関する考察―地域のエコミュージアム化に関する研究その５―」日本建築学会大会学術講演梗概集E-1,pp.425-426, 2000.
文－２）倉田公裕・矢島國雄 1997,『新編博物館学』東京堂出版.
文－３）川崎市市民局 1996.2,「川崎のエコミュージアムの胎動」『クオータリーかわさき』,No.47,川崎市, pp.24-37.

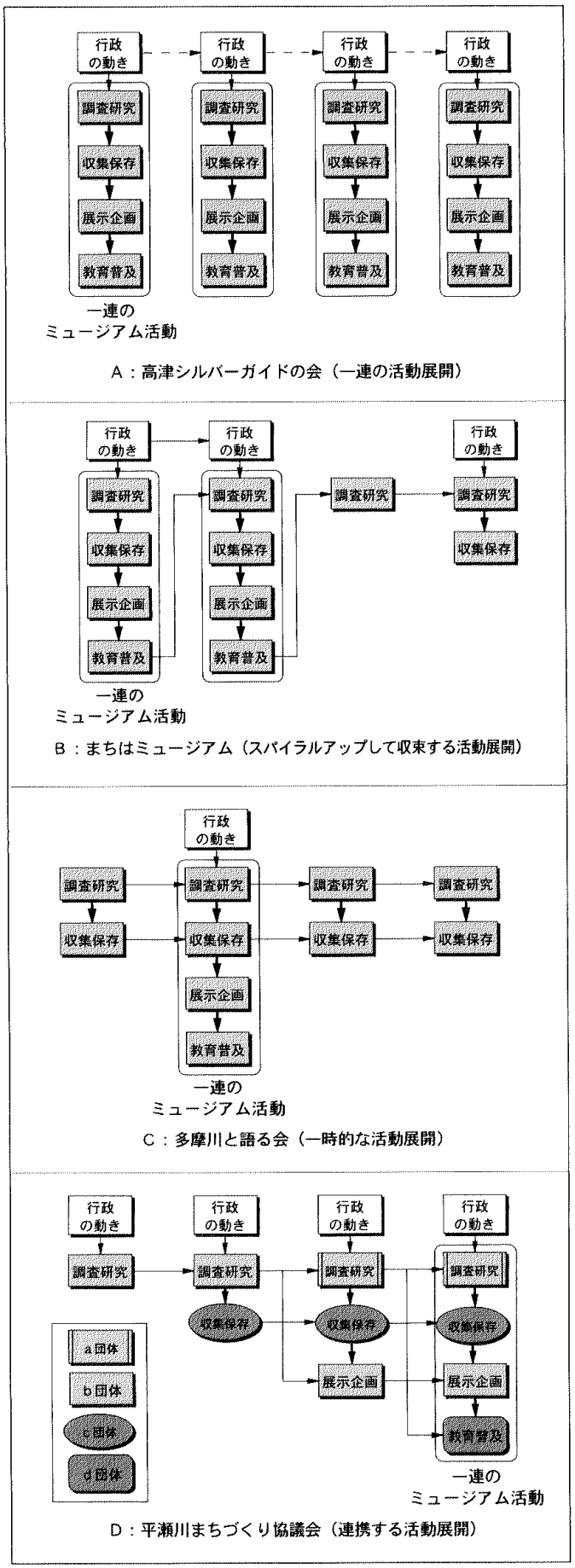

図１　市民団体の活動形成過程のタイプ別模式図

＊１　日本学術振興会特別研究員・工博　Reserch Fellow of the Japan Society for the Promotion of Science,Dr. Eng.
＊２　横浜国立大学大学院工学研究院助教授・工博　Assoc. Prof., Yokohama National University Faculty of Engineering, Dr. Eng.